

C-35 人体計測に基く婦人服原型の前・後衿巾の研究(第一報)

相模女子大 近藤れん子

目的 婦人服における肩線上の頸付根位置は前身頃と後身頃の接点であり、製図原型の起点でもある。また服種により衣服重量や圧力が、この左右頸付根点に集中するため着装者に生理的、心理的な影響を与えることも大で衣服構成上の重大な部位である。然し現今の日本の製図原型に見られるものは多種多様で統一がないため人体計測による適確な寸法を算出し製図原型の衿巾設定時の参考とし、快適な婦人服作製のための一助とすることを目的とした。

方法 体型の屈曲に添う程度の柔軟性のある硬質塩化ビニール25%材で特製ゲージを考案。専門家に作製を依頼した。18才~19才の女子大生224名を対象として各人の頸囲りに約1%の金属製鎖を巻き、衿付位置を固定、前、後中心点及び肩山点を明記測定ゲージを前正中線に平行に合わせながら頸圍線の鎖位置まで正確に移行し、肩山点と一致する地点で前頸圍の高さと巾の寸法を測定する。後衿も同様である。

結果 被験者及び測定者も人間であるため齟齬はまぬがれないとしても次の結果を得た。後衿巾が前衿巾より広い211名 後衿巾が前衿巾と同寸法8名 後衿巾が前衿巾より狭い5名 特に25~27cm 後衿巾が広い体型が全体として優位であった。尚背巾と後衿巾・胸巾と前衿巾等のそれぞれの相関関係がないことが判明した。